

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年3月9日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100246		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム なごみの里		
所在地	高知県香南市吉川町古川990番地50		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果 市町村受理日	平成23年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、住宅地から少し離れた閑静な場所にあり、すぐ目の前には太平洋がいつも見渡せる自然に恵まれた総合福祉ゾーンの一角に位置している。身体障害者療護施設、ケアハウス、デイサービスセンター、ヘルパーステーションが併設された複合施設としての機能性を活かし、日常的に情報交換や交流を行っている。事業所内は全室個室となっており、家族や親しい方、地域住民の方々が気軽に入居者とくつろげるよう畳の間も設けている。また、音楽療法や中庭を利用した園芸療法など、心身機能の維持向上を目指した生活リハビリテーションや多彩なレクリエーション等個々に応じた趣味活動の支援に意欲的に取り組んでいる。開設当初から飼っている愛犬との散歩も入居者の楽しみのひとつとなっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3972100246&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成22年12月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は多様な福祉施設、介護事業所に併設されており、その機能を活かしながら支援に取り組んでいる。また、自然豊かな環境の中にあり、利用者からの外出希望が多く、開設当初から飼っている犬と日々散歩したり、中庭で野菜作りを楽しむなど利用者本位の支援とともに、心身機能の維持を図るため、音楽療法や園芸療法なども行っている。事業所周辺には民家が少ないが、事業所から地域行事への参加や地域住民が複合施設の行事に参加してくれるなど、交流にも努めている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名： なごみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の安心と尊厳を大切にしながら、穏やかで自分らしい暮らしが送られるよう、毎朝の申し送り時に理念を唱和し、職員間で同じ目的を共有し、力を合わせて取り組んでいる。	職員で話し合い、現行の地域密着型を踏まえた理念へと見直しを行い、職員会で理念を振り返っている。ケアにおいては日々の言葉がけやプライバシーの確保などに配慮しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域社会の一員として地域の清掃活動や地域ボランティアの方々との交流、地域行事への参加など積極的に取り組んでいる。	地区会には加入していないが、利用者の家族や地元出身の職員から情報を得て、地域の行事等に参加している。事業所の秋祭りや敬老会などの行事には地域のボランティアの協力を得たり、大学の農学部から種苗をもらうなどの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの認知症に関する相談には随時対応している。また、地元小学校の教員研修や児童の事業所見学などの受入も行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、事業所での取り組みやサービス向上に向けての報告、相談などを行い、行政関係者や地域の方から助言等をもらいながら日々のサービスに活かしている。	事業所の運営状況や利用者の状況などについて報告し、参加委員から質問や意見、助言があり、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のほか、訪問や電話などにて情報収集の機会を作り、指導や助言を得てサービスの向上に努めている。	運営推進会議を通して事業所の状況を伝え、助言等をもらったり、日頃から市の担当課に制度の運用などについて気軽に相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践については、常に職員全員が理解を深めるよう、幅広く法人内外の研修会に積極的に参加し、実践できるよう取り組んでいる。	身体拘束に関する研修への参加や、伝達講習など内部の勉強会を通じ、職員に意識づけし、拘束のないケアを実践している。外出傾向のある利用者にはさりげなく付き添って散歩に行くなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく言葉の虐待も含め、常に高齢者の尊厳を保持するための勉強会や法人内の研修会などを通して職員に徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性が生じた時は関係者と話し合い、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については十分に時間をかけ、入居者や家族に理解してもらえるよう説明し、不安や疑問についても納得が得られるまで答えていくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望の出しやすい環境づくりを心がけ、健全な事業運営ができるように努めている。また、併設の施設を含めた全体で第三者委員も設置しており、入居者や家族が安心して利用できるように配慮している。	行事に合わせて家族会を開催し、家族同士の話し合いの時間も設けている。また、家族の面会時や運営推進会議の中で、家族の要望等を聞き出せるよう取り組んでいる。外出支援のほか、衣類の調整や入れ歯の管理など生活支援に関する意見が出され、それぞれに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の中で職員の意見や提案に耳を傾け、健全な事業運営ができるよう話し合いを行っている。また、職員の希望もあり、個別面談も随時行っている。	職員会や日頃の申し送り、職員の個別面談などの機会を捉え、意見や提案を聞いている。また、職員からも意見等を出しやすい環境にあり、備品の購入など希望に応じ対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で職員の苦情や相談の窓口を設け、意見や要望を出しやすい職場環境をつくり、離職防止に努めている。また、職員のやりがいや達成感につながる能力開発に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じて法人内外の研修会への参加はもちろんのこと、各資格取得に向けても法人内で勉強会を実施し、職員の育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流会に参加し、意見交換の場で得た情報を持ち帰りフィードバックすることでサービス向上が図られるように取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所の見学時や入居前に十分な時間を取り、面接の中でご本人から意見や要望を聞き、良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談を通して、ご家族から意見や要望を聞く機会を設け、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況やご家族の意向等を把握し、サービス内容を検討している。必要時に応じて他のサービスの利用など、法人内外での連絡調整もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に沿って、人との関わりや触れ合いを大切に共に暮らす仲間として、互いに尊重しあう関係を築けるよう、職員会や申し送り時に話し合い、意識づけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支え合っていく協力体制を大切にしながら、面会時や電話、便りなどで連絡、相談を密に行うなど、利用者の状況の共有と信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた馴染みの散髪屋や自宅付近へのドライブなど、関係性の継続に努めている。	行きつけの理髪店から訪問理容をしてもらったり、馴染みの店での買い物や、ドライブがてら自宅の近くに行くなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が共に仲良く過ごせるよう、食事の配席や外出時の車の座席などにも十分配慮し、良好な人間関係が保てるよう取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には次のサービスなどの相談に応じたり、退居後も電話や面会を通じてご本人の状況を聞くなど関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とのコミュニケーションの充実に努め、意向や希望を聞きながら日々の日課や支援につなげている。意思疎通の困難な方でも気持ちを汲みあげる観察力の向上に努めている。	日々の利用者との会話や表情などから、その意向や思いを把握するようにしている。、散歩など外出の希望の表出が多く、職員は個別に沿うよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護計画に反映できるよう、入居前や事前に本人や家族から生活歴や環境など綿密に聞き取りを行っている。また、日々の暮らしの中でも本人の発言や発語に耳を傾け、情報収集に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族からの聞き取りを基に、本人の できること、できないことの見極めを行い、一 人ひとりのペースやリズム、ADLの状況など を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人、家族からの意見はもちろん、職員の 日々の業務の中での気づきなどをもとに、随 時、介護計画に反映するようにしている。	本人、家族の意向等を聞き、カンファレンス を行い介護計画を立てている。期間は3カ月 を基本として、状態が変化した場合はその都 度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の一日の動きが分かるよう個別記 録の作成により職員間で共有し、ケアや介護 計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の言語療法士や作業療法士、管理栄 養士などと常に連携を図り、入居者の体調や 状況には対応ができるよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加や地域ボランティアの 協力により、地域との連携や交流が深められ るよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携を密にし、適切に受診でき るよう支援している。また、月2回、主治医の 往診も受けている。	今までのかかりつけ医で受診できるように し、通院介助は家族や職員が対応している。 受診結果は申し送りノートに記録し情報を共 有している。また、家族にも口頭や電話で報 告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護が受けられるよう医療連携体制を築いている。定期訪問以外にも健康状態で気になる時は随時連絡し、助言や指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院期間中は医療相談室と情報交換を密に行い、早期退院ができるよう調整を行っている。また、日頃から情報交換できるよう医療機関との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りについては指針を定めており、契約時には家族に十分な説明を行っている。	重度化した場合の指針について、入居時に家族に説明している。また、看取りに関する職員研修を行うとともに、利用者の状況や家族の意向に沿って、医療関係者と連携して支援していく体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回全職員が救急・救命講習を受講している。また、急変時や事故発生時はマニュアルに基づいた対応を行うよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団の協力を得ながら定期的に訓練を実施し、避難誘導がスムーズに行えるよう、併設施設を含めた施設全体で取り組んでいる。	併設のケアハウスなど複合施設全体の合同避難訓練を実施しているが、地域住民の協力は得られていない。災害時の非常用食料は準備している。	住宅地から少し離れているが、災害時には地域住民の協力が欠かせないので、地域の防災組織との関係づくりや運営推進会議を通して地域住民の参加が得られることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会や研修などを通じ尊厳の重視やプライバシーの保護について学び、職員は声かけやケアの対応時には特に注意をしている。	人格の尊重やプライバシーを損なわない対応について、職員会や研修会を通して職員に意識づけ、トイレ誘導の声かけなどは耳元で伝えるなど対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らし方について入居者から希望を言ってもらったり、決めてもらう場面づくりをしている。また、意思疎通の難しい方は、日頃の観察や些細な会話の中で思いを汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のリズムやペースを尊重し、職員間で共有して統一したケアを行うように随時話し合っている。また、個々の希望や思いを尊重した支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の個性を大切に季節感のある清潔な身だしなみを行うよう心がけ、個々におしゃれを楽しめるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力を活かした役割を各自に持ってもらい、食材運びや調理、盛り付け、後片付けなどの作業を協働で行いながら楽しい食事時間を共有している。	利用者も食材の買い出しに同行したり、調理から後片づけまで、利用者のできることを職員と一緒にしている。職員は法人の方針もあり弁当を持参しているが、行事の時や、食材のお裾分けなどに応じて職員も利用者と同じ物を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の体調や必要な摂取量を把握しながら、嗜好に配慮した食事や水分が取れるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、必要に応じ介護計画にも反映させ、個々のニーズに応じたケアを提供している。希望に応じて歯科往診の調整も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行うようにしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄するよう支援している。日中はオムツは使用しないようにするなど、個々に応じた排泄支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で個々の排泄状況を把握し、できる限り自然な排便習慣がつくよう、運動や水分補給、腹部マッサージなどを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り入居者の希望に沿った時間帯に入浴できるよう時間調整を行っている。	利用者の希望に沿った入浴を支援するとともに、仲の良い利用者同士で入浴したり、入浴剤を使用するなど、楽しく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	余暇は思い思いに過ごしていただけるようにしている。夜間不眠がある方については日中の活動を高め安眠できるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	研修会などを通して服薬支援の基礎知識の向上に努めるとともに、個別に服薬状況や副作用に関するファイルを作成し、職員全員が把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴や生活習慣、本人の持てる力に配慮し、レクリエーションや軽作業など可能な活動に参加してもらい、楽しみや生きがいにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所周辺の散歩や車を利用しての買い物やドライブなど定期的に行い、気分転換を図るようにしている。	日常的に事業所近くの海岸を散歩したり、週に一回の買物やドライブに出かけている。また、季節に応じた花見やみかん狩り、行楽など、積極的に外に出かける機会をつくっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを管理ができる方には買い物に同行し、本人に支払ってもらうなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話できるよう支援したり、面会の少ない方には電話や手紙のやり取りの機会をつくっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	総合福祉ゾーンとしての併設型の建物の構造上、家庭的な造りとはなっていないが、できる限り親しみの持てるよう創意工夫をしている。	日当たりの良い広い部屋にはソファとテレビを置き、畳の間にはコタツを置くなど、利用者がゆっくりくつろげるよう配慮している。また、季節の飾りや利用者が作った貼り絵、鉢植えを置くなど、季節感や和みのある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のほか、食堂、玄関、和室など思い思いのライフスタイルで自由に気の合う仲間と過ごしてもらうよう、家具の配置にも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れた品物を持ってきてもらうよう説明しているが、入居者個々の事情等もあり、可能な範囲でその人らしい居室となるよう工夫している。	洋服筆筒やテレビ、人形、写真など、利用者個々の好みに応じた物を置き、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力や残存機能の引き出しながら心身機能の維持向上ができるよう環境に配慮し、広々とした空間の中で手摺りなどを活用した歩行訓練などを実施している。		

ユニット名:

なごみの里

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない